

# 平成25年度第2回政策会議

日時 平成25年9月2日(月) 10:00~10:20

会場 市長会議室

参集者 工藤市長 中林副市長 片岡副市長 秋田企業局長 谷口企画部長  
川越総務部長 山田財務部長

## 健康はこだて21(第2次)素案について

◎対応 種田保健福祉部長 藤田保健福祉部次長 船水健康増進課長

### ◆ 議題の趣旨 ◆

平成14年度に策定した「健康はこだて21」の計画期間が平成24年度で終了したことから、その最終評価の結果やその後の状況変化などを踏まえて、必要な見直しを行った上で「健康はこだて21(第2次)」を策定するものですが、この素案に関して、内容を協議しました。

### ◆ 協議の結果 ◆

素案の内容は了承されました。

### ◆ おもな発言 ◆

#### ■ 種田保健福祉部長

国民の健康づくり運動ということで、平成12年に国が健康日本21を策定したが、その後、平成14年に健康増進法が制定され、それを受け本市では、平成15年3月に当初の健康はこだて21を策定している。

この計画期間が平成24年度で終了するというところで、第2次健康はこだて21の策定作業を進めてきた。住民のアンケート調査等も行い、昨年7月から策定委員会を設置し、計7回の委員会を経て、素案を策定したところである。

今後は民生常任委員会への説明後、10月からパブリックコメントを実施し、年内には計画を策定したいと考えている。

#### ■ 船水健康増進課長

まず、第1章基本的事項だが、健康寿命の延伸を目的とし、健康増進法に基づく市の健康づくり計画という位置づけのもと、平成25年度から平成34年度の10年間を計画期間としている。計画の基本的な方向については、生活習慣病の発症および重症化の予防、健康を支え、守るための社会環境の整備、ライフステージごとの健康づくりの3本を掲げている。

第2章市民の健康状況では、統計から見た特徴として、平均寿命や健康寿命が短いこと、ならびに生活習慣病が死因の約6割を占めていることなどがある。

また、がん死亡、高血圧ならびに血糖コントロール指標の高い人が多いことや、若い世代での朝食欠食者や男性の肥満が多いという結果が出ている。その他、運動習慣のある方が少ない、自殺者が多い、女性の喫煙率が高いなどの統

計が出ている。健康はこだて21第1次の最終評価の内容と評価についてだが、がんや心疾患、脳血管疾患による死亡率が減少したが、それでも全国に比べて高い状況が続いている。また、計画の達成度については、概ね達成されたものが37%、改善されたものが11.1%で、約5割で改善が図られたが、若い世代、働く世代の改善率が低いという状況になっている。

第3章健康づくりの目標と取組では、人の一生を3つのライフステージ、次世代18歳未満、働く世代18歳から64歳および高齢期65歳以上に分けている。まず、次世代の目標と取組は、目指す姿として、生活リズムを整えて基本的な生活習慣および早寝早起き朝ご飯の習慣を身につけることを掲げている。

働く世代では、自分の健康を見直す機会が少ないこと、仕事や育児に忙しいということから、健康づくりの情報を積極的に提供しながら、肥満の予防や解消ならびにこころの健康を保つことなどを目標としている。高齢期では、社会活動に積極的に参加できる身体とこころを保つことで、健康な老後を過ごすということを目指す姿としている。

第4章健康づくりの推進では、健康づくり推進員やヘルスマイトなど、健康づくりを身近で支援する方の育成を進めるとともに、地域関係団体、学校関係団体等からなる「健康はこだて21推進協議会」を立ち上げ、連携を図っていく。また、当協議会において、計画の進行管理をし、5年を目途に中間評価を行った上で、必要に応じて計画の見直しを行いたい。

#### ■谷口企画部長

第1次計画の評価について、本市は、女性の喫煙率が高いなど地域の特性があるということだが、評価をどのように捉えていて、二次の目標設定や根拠など、どういう考え方で設定しているのか。

#### ■船水健康増進課長

今回の第1次の計画の評価を基にしながら、新たに国からも指針などが出ているので、それらを考慮して目標設定をしている。第1次の評価における特徴として、肥満の方の割合や、喫煙率などは、全国平均と比べても高いので、その部分を強調しつつ、国や道の動向も勘案しながら目標値を設定している。

#### ■谷口企画部長

第1次の評価結果について、CやDもあるが、達成率としてはどうなのか。これは目標が高すぎたのか、それとも改善された方なのか。

#### ■船水健康増進課長

全体としては、目標が達成できたのは37%くらいで、あとの6割は目標値には達成できなかったというのはある。

特に、若い世代、働く世代の15歳から39歳および40歳から64歳の所への働きかけが足りない部分があったので、2次の部分については、働く世代への働きかけを強めていきたい。

#### ■工藤市長

現状を把握して課題を取り出した中で、目標を掲げ、計画を策定していくのはいいが、問題は、目標を達成するための具体策であり、例えば健診一つとっても、

今より多くの人に受診してもらうためには、どのように実施し、どういう方法で進めるのが良いか、ということが重要であり、そういった点を踏まえて取り組みを進めていって欲しい。

本件については了承した。